

三郷センター 来月稼働

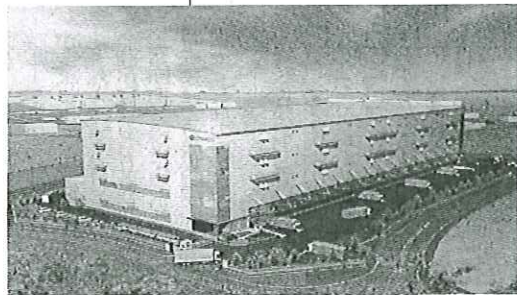
通販会社の物流受託

リードタイム減、低価格化

【大沢瑛美子】ヤマトロジスティクス(山内雅喜社長、東京都中央区)は通販向け専用センター「三郷販売物流センター」(埼玉県三郷市)を来月一日から稼働させる。百貨店「丸井」を展開する丸井グループの通販子会社マルイウオイ(若島隆社長、中野区)の通販物流を全面的に受託するとともに、通販業界向け「タルサーピス」Today Shopping(トウデイショッピング)を強みに、通販各社にも営業を展開していく。

三郷販売物流センター ロジクスパーク三郷Ⅱの事業拡大時に再度検討は延べ床面積三万九千七約七割を賃借し、残り二万三千七百七平方メートルの四階建て。一万八千八百平方メートルについては

通販向け三郷販売物流センター
(完成予想図)



ヤマトロジ

テコリー分けを行い、一階では靴、二階がアパレル、三階は雑貨を扱う。一方、二万六千五百平方メートルは化粧品やアパレル、健康食品などを取り扱う通販会社に営業を展開する。

アクセスは、JR新三郷駅から徒歩十分。再開発地区に位置し、倉庫内スタッフの募集に対しても「これまでに無いほどの応募者が来ている」(同社)という。また、東京外環自動車道路沿

び常磐自動車道の三郷インターチェンジも至近。マルイウオイの既存センターからも近く、立地条件の良さを同施設を選定した。

新センターでは、自動倉庫システム「オートピックファクトリー」を導入し、Web通販向け「タルサーピス」を本格展開。関東地域などを対象に、午後十一時までの受

注)対し、翌日午前の配達を実現した。オートピックファクトリーで搬出された商品をピッキング方式で仕分け。その後、各社の商品を梱包エリアに集約して出荷準備をし、数社の混載便としてトラックに積み込む。輸送には、宅急便ベースの最終便に間に合わせる。荷物を輸送する「クリーン便」を活用する。一連の取り組みにより、リードタイムの大幅減と低価格化を可能にした。

返品商品についても最短一日での良品化を実現した。従来、荷主主導で行っていた良品化処理を、自社対応とすることでスピードアップ。返品頻度が高いアパレル通販においては、在庫回転率向上など大きな効果が見込める。

生産性にも注目。各階中央にコントロールセンターを設置し、作業の進捗や状況をリアルタイムでモニター。現場管理者は、モニターに表示された情報をもとに、その都度、最適な人員配置を指示できる。また、商品撮影スタジオも倉庫に併設。庫内在庫を敷地内で使用することが可能となる。

新センターへの投資額は、オートピックファクトリーを含めたマテハンのみで三億七千万円。システム開発費なども含めると約五億円となる見通し。今後は、二十四時間体制のコールセンターサービスやヤマト運輸のネットワークを活用した返品商品の回収サービスなどもラインアップする計画だ。

販売物流カンパニーの星野芳彦プレジデントは「通販会社に対しての物流提案を行うと、コスト削減に終始してしまう。削減できる」と説明している。

層買いたくなる仕組みを物流の立場から提案することで、顧客への付加価値を創造した。顧客は購買が増えるほど売り上げが上がり、ヤマトロジも一件当たりのコストが削減できると説明している。